

視覚障害者の対応についての医療機関向けパンフレットの活用と評価に関する研究

研究代表者 八巻 知香子 国立がん研究センター がん対策研究所 室長
研究分担者 石川 准 静岡県立大学 国際関係学部 教授
研究分担者 河村 宏 特定非営利活動法人支援技術開発機構 研究開発部 部長
研究協力者 甲斐 更紗 国立がん研究センター がん対策研究所 特任研究員
研究協力者 今橋 久美子 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 室長
研究協力者 清野 絵 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 室長
研究協力者 原田 敦史 堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター 点字図書館長

研究要旨

医療現場での障害者への適切な対応を促すためには医療者向けの情報が必要である。障害のある人が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、支援者や家族による同行は難しく、医療機関・療養施設において、必要な配慮を適切に提供することが求められる。

視覚障害者が新型コロナウイルスに感染し入院した場合に、医療者や医療機関に求められる必要な配慮を記載したパンフレットを作成し、全国の保健所や視覚障害者情報提供施設に配布するとともに、評価やパンフレットの普及方法について示唆を得た。理解しやすいという評価が得られたが、パンフレットの活用方法について検討する必要が考えられた。

A. 研究目的

本研究では、全国の視覚障害者情報提供施設および保健所に配布した「医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド『視覚に障害のある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら』」について、視覚障害者情報提供施設および保健所それぞれの立場から、資材についての評価ならびに活用可能性について評価を求め、資材および普及方法の改善に活用することを目的とする。

障害のある人の医療へのアクセスが阻害されているという指摘は先進国においてもしばしば指摘されている。1990年に障害者への差別を禁じた障害をもつアメリカ人法（American with Disability Act : ADA）が成立した米国でも、構造、経済的、人的・文化的要因によって適切な医療の利用が阻害されていることが指摘されてきた（Morris, George & Mosqueda, 2008）。障害

者の健康格差を解消するためには、障害文化の理解が必要であるとして、米国の90%以上の医学部で行われている cultural competency の枠組みを用いた教育方法も提案されている（Robey, et. al. 2013）。日本においては2016年障害者差別解消法が施行されてからも、医療機関では十分な対応マニュアル等が準備されているとはいえない状況が続いており（Yamaki, 2018）、医療現場での適切な対応を促すための医療者向けの情報が必要な段階にある。

とりわけ、障害のある人が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、支援者や家族による同行は難しく、医療機関・療養施設において、必要な配慮を適切に提供することが求められる。そこで、本研究班では視覚障害者が新型コロナウイルス感染時に医療者に求められる必要な配慮について記載したパンフレット「医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド『視覚

に障害のある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら』(以下パンフレットと記載)を作成し、全国の視覚障害者情報提供施設および保健所に配布した。

本研究では、そのパンフレットについて、全国の視覚障害者情報提供施設および保健所の担当者に評価を求め、今後の資料の改善ならびに普及方法についての示唆を得るものである。

B. 研究方法

1. 調査期間と対象機関

2020年4月から2023年3月31日まで

①全国視覚障害者情報提供施設加盟施設(以下、全視情協と記載) 101か所

- ・2020年8月にパンフを各30部に送付
- ・2021年12月に見本としてのパンフ1部とアンケート送付
- ・2022年3月31日 回収打ち切り

なお、パンフレット本体については、令和2年度報告書ならびに研究班ホームページに掲載している。

【令和2年度報告書】

医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」の作成と普及に関する研究

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202008042A-buntan8.pdf

【研究班ホームページ】

障害のあるがん患者支援>本研究班および関連研究班による成果物

<https://plaza.umin.ac.jp/~CanRes/match/match-achievement/>

②保健所 469箇所

- ・2021年11月 パンフを各10部送付

- ・2021年12月 アンケート送付
- ・2022年4月30日 回収打ち切り

2. アンケート項目:保健所向け10項目(リッカート形式6項目、記述4項目)、全視情協向け13項目(リッカート形式9項目、記述4項目)

- ①施設名(記述形式)
- ②アンケートに回答した立場(選択式)
- ③手元に「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」がお手元に届きましたか。(選択式)
- ④「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスで感染し入院したら」を活用していただく機会がありましたか。

1) ④にて「あった」と回答した方:どのように活用していただいたでしょうか。(複数選択)

⑤「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」に関連して、感想を教えてください。(リッカート形式)

1) 視覚障害のある人が必要とする配慮が適切に記載されている(必要とする配慮の記載)^{※1}

2) 視覚障害のある人が必要とする配慮が網羅されている(必要な配慮の網羅)^{※1}

3) これまで視覚障害のある人とのかかわりがなかった人にも理解しやすい(理解しやすさ)

4) 医療関係者に視覚障害のニーズを知ってもらうのに有用だ(ニーズ理解の有用性)

5) 新型コロナウイルス対応に特化していない、平時の医療機関に求める配慮についての資料がほしい(平時での配慮資料の要請)

⑥「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」で不足している内容や、不適切だと思われる内容がありましたら、記載してください。(自由記述形式)

⑦新型コロナウイルス感染症に関連して視覚やその他の障害の方で特に困っていること、対応が必要だと考えられることがあればご自由にお書きください。(自由記述形式)

⑧(新型コロナウイルス感染症に限らず)医療

機関で視覚障害のある方が受診されるときに、配慮が不足している、改善が必要だと感じられることがあればご自由にお書きください。(自由記述形式)

※1 1)と2)の設問は全視情協のみ対象

3. アンケート結果の統計解析方法

実態を把握するための記述統計、施設種別による集計を行なった。

(倫理面への配慮)

本研究の対象は個人ではなく、本研究班で作成した資料を配布した施設を対象とし、施設の対応を問うものであり、研究倫理審査を必要とする内容ではない。なお、調査の趣旨や結果の公表については依頼状に明記し、説明している。

C. 研究結果

1. 回収状況：表1の通りであった。

2. 回答者の立場：表2のとおりであった。

①保健所

「新型コロナウイルス、COVID-19 担当者」が回答者の中で、もっとも多かった(101 施設、69.7%)。

②全視情協

回答者は「施設長」がもっとも多かった(24 施設、38.1%)。

3. 「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスで感染し入院したら」パンフレットを活用する機会の有無：回答結果は表3のとおりであった。

① 保健所

「現時点では活用の目途がたっていないが今後活用したい」がもっとも多く、81 施設(55.9%)であった。その次に多かった回答は「答えられない」の37 施設(25.5%)であった。

② 全視情協

活用する機会が「あった」という回答がもっ

とも多く、37 施設(58.7%)であった。

4. パンフレットを活用する機会があった場合のパンフレット活用方法：回答結果は、表4の通りであった。

①保健所

もっとも多かった活用方法は、「近隣の医療機関に配布した・配布する予定」の37 施設(34.9%)であった。その次に多かった回答は「利用者(視覚障害の当事者)に配布した・配布する予定」の29 施設(27.4%)であった。

③ 全視情協

もっとも多かった活用方法は「利用者(視覚障害の当事者)に配布した」の14 施設(37.8%)であった。その次に多かった回答は「福祉施設や行政の担当者に配布した」の11 施設(29.7%)であった。

5. パンフレットの評価：表5のとおりであった。

①保健所

1)理解しやすさ：「そう思う」という回答がもっとも多く、100施設(69.4%)であった。

2)ニーズ理解の有用性：もっとも多かった回答が「そう思う」の101施設(70.1%)であった。

3)平時での配慮資料の要請：もっとも多かったのが「ややそう思う」の回答であり、61施設(42.3%)であった。

②全視情協

1)必要な配慮の記載：もっとも多かった回答の「そう思う」であり、45施設(71.8%)であった。

次に多かったのは「ややそう思う」の18施設(28.6%)であった。

2)必要な配慮の網羅：もっとも多かった回答は「ややそう思う」の34施設(54.0%)であった。

- 3)理解しやすさ:もっとも多かった回答は「理解しやすさ」の40施設(64.5%)であった。
- 4)ニーズ理解の有用性:「そう思う」がもっとも多い回答であり、46施設(73.0%)であった。
- 5)平時での配慮資料の要請:「そう思う」と必要としている回答がもっとも多く、40施設(64.5%)であった。

D. 考察

国立がん研究センターが発行した「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」のパンフレットの評価を全国の保健所及び、全視情協に求め、それらの結果から、今後の資料の改善ならびに普及方法について検討した。おおむね、パンフレットが理解しやすかったという評価が得られた。

パンフレットの活用方法については、それぞれの施設の機能によって、近隣の医療機関や利用者(視覚障害の当事者)にパンフレットが配布されていることが窺えた。しかし、保健所において、「答えられない」という回答が全体の4分の1を示していたことから、活用方法が分からず戸惑ったり、毎日の新型コロナウイルス感染への対応に追われたりして、視覚障害者が新型コロナウイルスに感染したときの対応までは想定できなかった可能性が考えられよう。パンフレットの活用方法については、具体的な活用法を提示しながら啓発していくことが望まれる。

今回の取り組みは、視覚障害者にとって、医療に関する適切な情報が提供される環境づくりに寄与できるものと考えられる。

E. 結論

視覚障害者の医療アクセスを円滑にさせるために作成した、視覚障害者が新型コロナウイルス感染時に医療者に求められる必要な配慮について記載したパンフレット「視覚に障害のある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」については、わかりやすいという評価が得られ、

また、近隣の医療機関や関係者への配布が実施され、一定の活用がなされたことが確認された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

表1 回収状況

	保健所	全視情協
調査対象者数	469	101
回収数	145	63
回収率	30.9%	62.4%

表2 回答者の立場

担当者	全視情協		保健所		
	度数	%	担当者	度数	%
施設長	24	38.1	新型コロナウイルス、COVID-19 担当	101	69.7
支援部門責任者	9	14.3	障害分野担当	18	12.4
支援スタッフ	12	19.9	その他	24	16.6
その他	18	28.6	無回答	2	1.4

表3 「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスで感染し入院したら」パンフレットを活用する機会の有無 (上段：度数 下段：%)

	あった	今から活用 する予定	現時点では活用の 目途はたっていないが 今後活用したい	答えられない	合計
保健所 (n=145)	19 13.1	8 5.5	81 55.9	37 25.5	145 箇所 100.0%
全視情協 (n=63)	37 58.7	21 33.3	4 6.3	1 1.6	63 箇所 100.0%

表4 パンフレットを活用する機会があった場合のパンフレットの活用方法 (上段：度数 下段：%)

	近隣の医療機関 に配布 (または 配布予定)	福祉施設や行政の 担当者に配布 (または 配布する予定)	利用者 (視覚障害 者当事者) に配布 (または配布する 予定)	研修・講演会の資料 として利用 (または 配布する予定)	その他
保健所 (n=145)	37 34.9	14 13.2	29 27.4	10 9.4	38 35.8
全視情協 (n=37)	7 18.9%	11 29.7%	14 37.8%	10 27.0%	20 54.1%

表5 パンフレットの評価

項目	評価	保健所 (n=144)		全視情協 (n=63)	
		度数	%	度数	%
必要な配慮の記載	そう思う			45	71.4
	ややそう思う			18	28.6
	あまりそう思わない			0	0.0
	そう思わない	設問には入れていない		0	0.0
必要な配慮の網羅	そう思う			26	41.3
	ややそう思う			34	54.0
	あまりそう思わない			3	4.8
	そう思わない			0	0.0
理解しやすさ※2	そう思う	100	69.4	40	64.5
	ややそう思う	43	29.9	21	33.9
	あまりそう思わない	1	0.7	0	0.0
	そう思わない	0	0.0	1	1.6
ニーズ理解の有用性 ※2	そう思う	101	70.1	46	73.0
	ややそう思う	43	29.9	17	27.0
	あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0
	そう思わない	0	0.0	0	0.0
平時での配慮資料の 要請※2	そう思う	45	31.2	40	64.5
	ややそう思う	61	42.3	19	30.7
	あまりそう思わない	29	20.1	3	4.8
	そう思わない	7	6.4	0	0.0

※2 回答を除いての再集計